

津波

スタート

資料5-1 災害リスク早見表の津波で、自宅※（町名）が「○」になっていますか？

※ 実際の居住場所 **はい**

津波ハザードマップで自宅がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

資料5-2-1 津波ハザードマップ

自宅が避難対象地域内にありますか？

はい

自宅の基準水位、津波到達時間を事前に確認しましょう。

基準水位 (m以上 ~ m未満)
津波到達時間 (分以上 ~ 分未満)

※津波到達時間が明記されていない場合は、津波到達時間の目安を15分とと考えてください。

津波到達時間を目安に、避難先を検討しましょう。

P15~p19

- 避難対象地域外の安全な場所への避難
- 避難対象地域外への避難が難しい場合、津波避難ビル・津波避難地への避難

資料5-2-2 津波避難ビル・津波避難地一覧

避難先が決まったら個別避難計画の「避難先（地震）」と「避難経路及びその他の事項」を記入

大津波警報等が発表されたら、直ちに避難を開始しましょう

資料6-2 地震・風水害時の避難のポイント(表面)
資料6-3 災害情報の入手方法

p18(逃げかた), p40(情報収集)

＜最終手段としての避難行動＞

津波が迫っている状況などでは、自分や家族の判断で、近隣の高く堅牢な建物や基準水位の及ばないできるだけ高い場所、自宅の上階への避難により【緊急安全確保】を図り、命を守るために最善の行動をとりましょう。

警報が発表されている間は、避難を続けましょう

災害リスクの確認
まっぷ de ちがさき



いいえ

いいえ

凡例

○ 「資料4-2 茅ヶ崎市の災害リスクと避難行動」のページ番号

👉 個別避難計画反映事項

💡 ポイント

在宅避難など

自宅で安全に生活できる場合、在宅避難の選択も可能です。 p23

【判断ポイント】

- 家屋が倒壊するおそれがないか p13
- 自宅の付近に崖などがいないか p22

昭和56年以前（旧耐震基準）の建物は特に注意しましょう

	旧耐震基準	新耐震基準
建築確認日	1981年(昭和56年)5月31日まで	1981年(昭和56年)6月1日以降
震度5程度の地震	倒壊・崩壊しない	軽微なひび割れ程度にとどまる
震度6程度の地震	規定なし(倒壊の恐れあり)	倒壊・崩壊しない

自宅で生活できる準備が必要です。 p23

資料6-2 地震・風水害時の避難のポイント(表面)

在宅避難を選択する場合、個別避難計画の「避難先（地震）」に“自宅”と記入

在宅避難を選択しない場合は、別の避難先を検討し、個別避難計画の「避難先（地震）」と「避難経路及びその他の事項」を記入 p13,p22

スタート

(参考)地震火災

自宅が、クラスターの中、又は、クラスターの付近に該当しますか？ p20

資料5-6 震災時、茅ヶ崎市では『火災』が怖いですか？
☞ 茅ヶ崎市クラスター分布図 (p3)

避難のポイント

- 地震火災は、発生場所や風向・風速などにより、危険の及ぶ速さや避難すべき方向が異なるため、避難先や避難経路を事前に定めることは困難です
- 火災の発生状況や気象状況に応じて、避難先を判断し、幅員の広い道路を選択して避難しましょう
- 自宅から方向が異なる避難先を、複数検討しておくことが有効です p21

広域避難場所をチェック

資料6-1 避難所・広域避難場所マップ

スタート

資料5-1 災害リスク早見表の洪水・高潮・土砂災害で、自宅※（町名）が「○」になっていますか？

※実際の居住場所 **はい** → ひとつでも該当

いいえ（すべて非該当）

💡 災害リスクの確認
まっぷ *de* ちがさき



凡例

○ 「資料4-2 茅ヶ崎市の災害リスクと避難行動」の該当ページ番号

👍 個別避難計画反映事項

💡 ポイント

ハザードマップで自宅がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。
p26,p27(洪水)、p30(土砂)、p31(高潮)
資料5-3 洪水・土砂災害ハザードマップ
資料5-5 高潮ハザードマップ

自宅に色が塗られていますか？

はい

いいえ（すべて非該当）

ハザードマップに色が塗られていない場所でも災害が発生するおそれがあります。危険を感じた場合は、躊躇なく避難しましょう。

👍 個別避難計画の「避難先（風水害）」に「該当なし」と記入

土砂災害

洪水

高潮

いいえ

自宅は、家屋倒壊等氾濫想定区域の“外”にありますか？

洪水：資料5-3(表面)、高潮：資料5-5(表面) p28(洪水), p32(高潮)

はい

いいえ

自宅の中で、浸水深より高い場所がありますか？

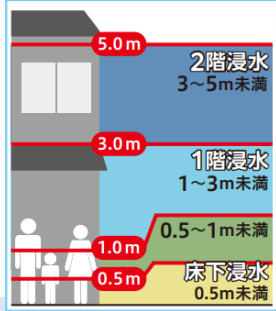
💡 浸水深 洪水 資料5-3(表面) 高潮 資料5-5(表面)
(m ~ m未満) (m ~ m未満)

はい

※水がひくまで生活できる準備が必要です。 p29

💡 浸水継続時間 洪水 (資料5-3(表面)で確認) 高潮 (12時間未満)

浸水深とイメージ



原則

選択可

原則、**立退き避難**（災害リスクの及ばない区域など、より安全な場所への避難）が必要です。身の安全が確保できる避難先を検討しましょう。

p34,35 (洪水、高潮), p37(土砂)

立退き避難が難しい場合、**近くの高い建物などへの垂直避難**を検討しましょう。 p36 (洪水、高潮のみ)

👍 個別避難計画の「避難先（風水害）」と「避難経路及びその他の事項」を記入 p38(逃げかた)

※ 避難経路の検討にあたっては、資料5-3(裏面)内水ハザードマップも参考にしましょう。

自宅での垂直避難（上階で計画的に身の安全を確保すること）も選択可能です。身の安全が確保できる場所を検討しましょう。 p36

- 個別避難計画の「避難先（風水害）」に「自宅で身の安全が確保できる場所」（例：自宅2F寝室）を記入
- 「避難経路及びその他の事項」に「自宅で身の安全が確保できる場所」までの経路上で特に留意すべき点を記入

市が発令する**警戒レベル3高齢者等避難**までに、避難を開始しましょう※

※ 気象警報（気象庁発表）などを参考にして、避難情報を待たずに、早めの避難を心がけてください

資料6-2 地震・風水害時の避難のポイント（裏面）、資料6-3 災害情報の入手方法

p40(情報収集), p33(逃げどき), p39(マイ・タイムライン)

（参考）最終手段としての避難行動

市から警戒レベル5緊急安全確保が発令される段階では、災害がすでに発生している可能性が極めて高い状況です。**命を守るために最善の行動**をとりましょう。

【洪水、高潮の場合の行動（例）】

自宅などのより高い場所へ緊急的に移動 など

【土砂災害の場合の行動（例）】

近くの頑丈な建物の2階以上／自宅のがけから離れた部屋や2階 など

